

2022年5月30日

2021年度

事業報告書

自2021年4月 1日
至2022年3月31日

<本編>

I . 法人の概要	1
II . 事業の概要	5

I. 法人の概要

1. 建学の精神

確かな技術と共に社会奉仕の精神を養い、人格共々優秀な人材の育成を目指します。

2. 学校法人の沿革

平成20年（2008）3月	大阪府より学校法人近畿医療学園の認可を受ける
	大阪府より近畿医療専門学校設置の認可を受ける
	大阪府より柔道整復師養成施設の承認を受ける
平成20年（2008）4月	柔道整復学科昼間部、夜間部開設
平成23年（2011）3月	柔道整復学科第1期生卒業
平成23年（2011）3月	大阪府よりはり師・きゅう師養成施設の承認を受ける
平成23年（2011）4月	鍼灸学科昼間部Ⅰ、昼間部Ⅱ開設
平成26年（2014）3月	鍼灸学科第1期生卒業
平成27年（2015）4月	鍼灸学科夜間部開設
平成30年（2018）4月	柔整学科・鍼灸学科夜間部閉鎖
令和3年（2021）4月	柔整学科昼間部スポーツ科学コース開設

3. 設置する学校・学部・学科等

法人の名称		学校法人近畿医療学園		事務所の所在地		大阪府大阪市北区西天満 5丁目10番3号		
設 置 す る 学 校	学校名	課程名	学科名	学部	修業年限	入学定員	1学年の 学級数	備考
	近 畿 医 療 専 門 学 校	医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	60	2	午前
		医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	30	1	午後
		医療専門課程	柔道整復学科	昼間部	3	30	1	スポーツ科学 コース
		医療専門課程	鍼灸学科	昼間部	3	30	1	午前
		医療専門課程	鍼灸学科	昼間部	3	30	1	午後

4. 施設等の状況

学校名 (所在地)	校地現有面積	校舎現有面積	備考
近畿医療専門学校 (大阪市北区西天満5丁目3番10号)	698.14 m ²	4102.27 m ²	
		87.81 (臨床実習施設) m ²	

5. 役員の概要

(2021年4月1日現在)

役員	氏名	役員就任年月日	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	小林英健	平成20年5月	第6条第2号	
理事	清原伸彦	令和3年4月	第6条第1号	近畿医療専門学校校長
理事	山本宗弘	平成20年4月	第6条第2号	
理事	北川勝司	平成20年4月	第6条第2号	
理事	小林 朋子	平成20年4月	第6条第3号	
理事	田中宣彦	平成26年11月	第6条第2号	
理事	田中順	平成31年1月	第6条第2号	
理事	池之上慎	平成31年1月	第6条第2号	
監事	深澤由行	平成22年3月	第7条	
監事	京本永寿	平成31年1月	第7条	

定員数：理事8名、監事2名

6. 評議員の概要

(2021年4月1日現在)

役員	氏名	寄附行為上の選任区分
評議員	坂本博	第25条第1号
評議員	西堀健司	第25条第1号
評議員	小林栄美	第25条第1号
評議員	笠置里美	第25条第1号
評議員	清原伸彦	第25条第1号
評議員	大澤泰嗣	第25条第2号
評議員	伊藤勇二	第25条第2号
評議員	原岡進	第25条第2号
評議員	宇野耕介	第25条第2号
評議員	森下和幸	第25条第2号
評議員	小林英健	第25条第3号
評議員	北川勝司	第25条第3号
評議員	山本宗弘	第25条第3号
評議員	小林朋子	第25条第3号
評議員	田中宣彦	第25条第3号
評議員	田中順	第25条第3号
評議員	池之上慎	第25条第3号

定員数17名

●理事会・評議委員会

評議委員会 2021/5/26 (決算)、2021/11/10、2022/3/28 (予算)

理事会 2021/5/26 (決算)、2021/11/10、2022/3/28 (予算)

7. 教職員の概要

●専門学校・診療所

(2021年5月1日現在)

区分	専任	兼任	合計
教員	20	23	43
職員	13	0	13
診療所職員	1	0	1
合計	34	23	57

●専門学校・診療所

(2020年5月1日現在)

区分	専任	兼任	合計
教員	19	20	39
職員	13	0	13
診療所職員	1	0	1
合計	33	20	53

8. その他

●主な加盟団体

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会	専門学校	法人本部	学校関係
2	公益社団法人全国柔道整復学校協会	専門学校	法人本部	
3	公益財団法人全日本柔道連盟	専門学校	法人本部	
4	全日本実業柔道連盟	専門学校	法人本部	

II. 事業の概要

1. 国家試験結果

●鍼灸学科国家試験結果

		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率%	全国合格率%
はり師	新卒	36	35	1	97.2	90.3
	既卒	8	0	8	0.0	21.1
	総数	44	35	9	79.5	74.2
きゅう師	新卒	36	36	0	100.0	91.4
	既卒	8	0	8	0.0	20.2
	総数	44	36	8	81.8	76.1

新卒においては、37名のうち1名の留年者を除き、はり師35名きゅう師36名が合格し、きゅう師においては100%の合格率を出すことができた。実力試験を基に個別面談や授業外の補講等国試対策を行い、例年安定した合格率を保っている。一方既卒の合格者は0で、総数になると全国平均をやや上回る結果となった。

●柔整学科認定実技試験結果

72名受験し71名合格し、1名が不合格となったが、再試験にて合格となった。

●柔整学科国家試験結果

		受験者数	合格者数	不合格者数	合格率%	全国合格率%
柔道整復師	新卒	49	32	17	65.3	81.0
	既卒	39	3	36	7.7	16.9
	総数	88	35	53	39.8	62.9

新卒の合格率65.3%で昨年比では16.8ポイント下がり、総数では39.8%となり昨年比では0.8ポイント上がった。新卒の合格率は全国平均より低い。既卒の合格率も低く、昨年比で6.6ポイント下がる結果となった。新卒者に対しての模試の実施、成績不良者対象の補講強化、メンタル面のフォローなど個別指導を継続し、今年度は新たに学年を問わず4階講堂にて補講を実施した。また既卒者に関しては、ここ数年卒業延期者が増えてきた事により更に既卒者の受験数が増え、既卒の合格率向上に対して、例年行ってきた希望者に対しての科目履修・模試など、国試対策の充実が必要である。

2. 退学者・留年者数

●退学者数

	1年	2年	3年	合計
鍼灸学科	11	2	1	14
柔道整復学科	7	6	11	24
合計	18	8	12	38

●留年者数（うち復学者）

	1年	2年	3年	合計
鍼灸学科	2	1 (1)	1	4 (1)
柔道整復学科	2	0	8	10
合計	4	1 (1)	9	14 (1)

昨年度24名の退学者より今年は約6割増の38名となり、そのうちW在籍者で鍼灸学科に専念希望者2名あり。柔道整復学科3年生22名が卒業試験不合格で、留年決定となり、そのうち経済的な理由等で9名退学となった。その他就職との理由で退学した生徒が多く、就職を決めた理由には、学業意欲低下による成績不良がある。生徒のモチベーションを高く持ち続ける事が出来るような新たな取組みが必要である。

3. 会議

●教職員会議

- ・柔道整復学科会議（21回）・鍼灸学科会議（13回）・広報会議（6回）・校務運営会議（13回）
- ・教職員全体会議（4回）

今年度は、当初よりコロナ禍で緊急事態宣言下の対応など各部署の所属長による緊急会議が開かれた。

定例会議ではなく必要に応じてこまめに打合せ等をし、また毎日の昼礼での様々な報告を含め、各部署のグループラインを利用しての報告・連絡・相談を密にし、又学校全体ラインでの共通認識を持つ事で組織として円滑に迅速な対応ができた。

特に教職員全体会議では、建学の精神を再三確認し、理事長、校長のお話と各部の分科会等を実施し、理念に裏打ちされた各部の目標、行動を立案し、同時に学校全体の一体感を醸成することができたと考える。

4. 年間行事

●スポーツ大会

6月19日（土）にR A C T A B ドームにて開催を予定していたスポーツ大会は、コロナの影響により中止となった。

●学園祭

例年 柔道大会や各学科のイベントなどで学内外の交流を深める為にも良い機会ではあるが、コロナの影響により中止した。

●同窓会

コロナの影響により開催を見送った。

5. 部活動

●野球部

設立8年目となる今年度の部員数は28名となった。コンタクトスポーツではないため、不定期で社会人野球チームとの交流試合を実施（7月、8月、9月、3月）。学生の友人、家族も応援に駆けつけ、学校の日常では得られない貴重な交流の時間となった。また学校近隣の本庄公園で週一回の練習後、公園周辺のゴミ拾いを行うほか、先輩から後輩に勉強を教える学習会を度々実施し、専門学校では稀薄になりがちな「縦のつながり」を作り、学習面のみならず、人間的にも成長の場になった。

●柔道部

4月から緊急事態宣言により、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、活動中止。試合・昇段審査は軒並み中止となり参加する事が出来ず、学校柔道場の徹底した感染防止措置をした上で練習を数回行った。

●トレーナー部

今年度はコロナの流行により救護依頼はなく、活動を自粛いたしました。

●サッカーコン好会

コロナ感染拡大防止のため、活動を自粛した。

6. 生徒募集

●入学者数（年度対比）

	期	柔整午前	柔整午後	柔整夜	小計	鍼灸午前	鍼灸午後	鍼灸夜	小計	合計
H20年度	柔1		60	14	74				0	74
H21年度	柔2		60	41	101				0	101
H22年度	柔3		57	32	89				0	89
H23年度	柔4・鍼1		42	40	82	21	22		43	125
H24年度	柔5・鍼2		37	17	54	21	20		41	95
H25年度	柔6・鍼3		59	21	80	13	11		24	104
H26年度	柔7・鍼4		36	10	46	12	9		21	67
H27年度	柔8・鍼5		61	7	68	17	11	16	44	112
H28年度	柔9・鍼6		62	7	69	14	28	9	51	120
H29年度	柔10・鍼7	23	31	13	67	22	23	17	62	129
H30年度	柔11・鍼8	31	21		52	9	8		17	69
H31年度	柔12・鍼9	55	32		87	14	30		44	131
R2年度	柔13・鍼10	58	36		94	16	30		46	140
	柔整午前	柔整午後	スポーツ 科学	小計	鍼灸午前	鍼灸午後		小計	合計	
R3年度	柔14・鍼11	39	14	22	75	29	29		58	133
R4年度	柔15・鍼12	53	11	11	75	23	30		53	128

●オープンキャンパス

昨年度と同様に土曜日と夏休み中の平日の開催も含め年間38回開催した。日程だけでなく開催時期や案内、オープンキャンパスの内容等可能な限り改善に取り組んだ結果、来校者数では187名、個別相談会では79名の参加があった。また38回のオープンキャンパスに79回の個別相談会（内オンライン相談=24回）をあわせると、年間117回の募集イベントを行った。

●講演会・高校ガイダンス

新型コロナウィルスの影響でキャンセルも多かったが、年間35回の訪問ガイダンスを実施することができたのは、ひとつには近畿医療専門学校の広報メンバーがこれまでに作ってきた高校、高校教師、クラブ活動指導者との関係性が有効に働いたと考える。内容的には理事長講演、校長講演のほか、クラブ活動の場に赴き、パフォーマンスアップの手法、ケガをしにくい体づくり等を指導し、柔道整復師、鍼灸師の技術と近畿医療専門学校の基準の高さをアピールし、学校認知度を高め、学生募集に大いに貢献したものと考える。

7. 教育内容の充実

●柔道整復学科昼間部スポーツ科学コース

最先端のスポーツ科学に基づいた運動能力の測定・分析ができるラボ（研究施設）を設置し、スポーツ医学のノウハウをカリキュラムに取り入れたコース（店員30名）としての募集をスタートさせ、スポーツ科学コースⅠ期生は22名の入学生を迎える事ができた。

座学・実技を含め、多くの事を学び学習し続ける中、退学率も少なく勉強意欲の高いクラスとなりました。

●職業実践専門課程認定

昨年度の新たな職業実践専門課程認定申請により「柔道整復学科 昼間部」「鍼灸学科 昼間部」という枠組みで、両学科、各午前コース・午後コース全体での認可をとれることとなった。今後の学校の課題や取組み等、業界や広い視野からの意見交換の為、教育課程編成委員会、学校関係者評価委員会を開催し、学生にとってより充実した教育内容を検討していく、より良い学校づくりに役立っていく事が出来た。

8. 就学支援制度

●高等教育の修学支援制度の対象校

2020年度より新しく始まった制度で、高校卒業後2年以内の入学生対象ではあるが、高校での申込みが殆どで、対象校であるかどうかが、かなり募集に影響する。2020年度は下記①のみが認定要件に該当したが、2021年度は、定員充足率70%の要件も含めすべての項目で要件を満たし、引き続き認定を受けることが出来た。

認定により、該当学生の入学会・授業料が減免の対象となり、世帯収入に応じ区分Ⅰ～Ⅲの支援を受けることができる。

当年度は、1年16名、2年25名、3年10名の合計51名（停止者6名含む）が利用者で、国と自治体から年間実績額として23,972,900円の支援を受けた。

- ① 直前3年度の決算の事業活動収支計算書における【経常収支差額】が、1カ年でもプラス
- ② 直前の決算の貸借対照表における【運用資産－外部負債】がプラス
- ③ 直近3年度の収容定員充足率が、1カ年でも80%以上（段階的に2021年は70%以上、2022年からは80%）

※①～③のうち一つでも要件を満たせば良い。

※停止者とは、毎年9月の日本学生支援機構の家計基準見直しにより支援停止された者。次年度の家計収入が下がれば支援が復活する可能性がある。

●内部進学免除制度

柔道整復師と鍼灸師の両資格を取得する事で、外傷だけでなく内臓疾患に対してのアプローチにより治療の幅が広がり、より多くの患者の治療に携わる事が出来る事、またスポーツトレーナーとしても選ばれる確率が上がることなどへの理解が広がり、内部進学者が増加した。内部進学の特典として卒業生及び在校性、さらに入学希望者に対し入学金免除に加え授業料等を半額にすることでダブルライセンスを取得し易い環境にあることをアピールしている。

2022年度入学者で、既卒3名、新卒8名、1年ずらしが17名、2年ずらしが6名の計34名の利用者がいた。

●専門実践教育訓練給付金制度

社会人向けの専門実践教育訓練給付制度で、2021年度は鍼灸学科午後コースのみが指定されており、1年生10名、2年生12名が利用していた。鍼灸午後コースの指定は、2020年度卒業生に対し行い、入学者数からの①国家試験受験率が80%以上、②合格率が全体の平均以上、③就職率が80%以上、の条件のうち国家試験受験率の条件を満たす事ができなったため、指定取消しとなった。しかし昨年度申請した鍼灸学科午前コースが認定され、2022年度の利用者は1年生4名である。

鍼灸学科午後コースの認定に関しては、2021年度卒業生が対象となり、条件が満たされたため、2023年度の認定に向け、

再度申請をした。この結果は2022年9月に判明するため、募集に大きく貢献できることとなる。

9. 社会貢献の充実

●地域貢献

今年度も西天満社会福祉協議会主催の「生涯元気の会」にて、地域の高齢者向けにテープティング等の講座を開催してきた。コロナ感染拡大防止により中止された時もありましたが、計7回開催されました。「子供文化祭」「子育てサークル」はコロナの影響により中止された。地域の方々と関わる事で付属治療院の来院にも繋がった。

10. その他

●シンボルマークの変更

2022年4月から「第二創成期」として、学校の新時代を創るという方針が小林英健理事長より示され、その先駆けとして開校以来14年使用してきた丸形のシンボルマークを、帆船を象ったものに変更した。さらにそのシンボルマークをあしらったバッジを教職員全員に貸与し、新時代の創造への思いを高めた。

